

パリ2024オリンピック・パラリンピック
競技大会で金メダルを獲得した
元木咲良さんと金子和也さんに、
市議会の印象や
さいたま市への思いなどについて
語っていただきました。

住めば魅力がわかる！
わたしたちのホームタウン

— 本日、決算特別委員会を傍聴いただきましたが、いかがでしたか？

元木 子育て支援策について、議員さんや行政の方々がテキパキと真剣に議論されていたのが印象的でした。

金子 子育て支援への熱量を感じましたね。税金の使い道はいろいろありますが、「人」のために生かすことが社会の豊かさにつながっていると思います。その思いで皆さんが頑張ってくれていると感じました。

自分の強みを磨くことで
可能性が無限大に広がります

元木咲良さん
レスリング選手

金子和也さん
ゴールボール選手

小さな挑戦を繰り返すことで
自分の道が開けると信じています



決算特別委員会を
傍聴しました！

返すには、床を使って俊敏に動く瞬発力とフィジカルが強さが必要なんです。そこがレスリングに少し似ているので、元木さんなら有力選手になれると思います。

元木 確かに、レスリングでも、タックルに入る時は床を強く蹴ることが大切です。やってみたいですが、気軽にできる環境がまだ少ないですね。

金子 ゴールボールは、バレーボールコート一つ分の場所が確保できれば、プレーできます。学校や市営の体育館にバスケットやバレーのボールがあるように、ゴールボールも置いてあれば、もっと多くの人が楽しめるようになると思います。普及のために、僕らもあち

元木 本当にそうですね。初めて傍聴しました。自分にとって身近な問題が取り上げられていることがわかれば、若い世代の人たちも市議会に興味を持つのかなと思います。

金子 市議会が一番身近な政治ですね。さいたま市には、「スポーツ振興基金」を活用して小中学生からオリンピック・パラリンピック強化指定選手まで広く支援する制度があり、自分も支援を受けることができました。市議会にアンテナを張っておくと、こうした取組をいち早く知ることができそうですね。

— さいたま市での思い出などを教えてくださいませんか？

金子 小学生の時に住んでいた北区の「中山道みやはらまつり」は楽しかったですね。所属していたリトルリーグのチームで、お神輿を担いでいました。

元木 大宮の氷川神社の初詣によく行っていました。父と妹と、犬も一緒に、自宅から往復2時間ぐらいかけて走っていくんです。

金子 それはすごい！自分は今も市内に住んでいます。たとえ市外に住むことになっても、ここがホームタウンであることは変わらないと思います。先日、友達が市内で結婚式を挙げたんですが、二次会は、もちろん大宮駅東口の居酒屋で。地元好きの友達が多いですね。

元木 わたしは現在、群馬県前橋市に住んでいます。ですが、どこへ行くにも車が必要で、さいたま市の便利さに改めて気づきましたね。住みやすいし、子育て支援も充実しているし。さいたま市の魅力は、住めばわかる「帰ってきたくなるまち」なのかもしれません。

ここで体験会を開催しています。

元木 レスリングも、専用マットがあれば対戦できます。女子レスリングは、競技人口は少ないのですが、埼玉県内には世界のトップ選手が多いんです。競技人口が増えれば、もっと強くなれる可能性を秘めているので、市には多くの人が挑戦できる環境や機会を充実していただき、「スポーツのまちさいたま」を盛り上げていきたいですね。

夢をあきらめない
その先に新しい世界が待っている

— スポーツに取り組む子どもや市民に向けてトップをつかむ秘訣を教えてください。

元木 わたしは小さい頃からずっと勝ち続けているわけはありません。ケガを繰り返して、「レスリングを続ける意味があるのかな」と思った時期もありました。でも、いろいろな方に支えられ、練習できない期間は動画をたくさん見たり、レスリングを研究する時間に費やしたところ、復帰後は以前よりレスリングが大好きになり、競技力がすごく伸びていることに気づきました。ケガがなかったら、オリンピックに出られていなかったし、金メダルも夢のまた夢で終わっていたかもしれません。

金子 ケガですごく苦しくて、その間にたくさん研究して競技力向上につなげたのがすごいです！技を磨くには、まず自分の目を養うことも大事ですね。僕は2021年から始めたウエイトトレーニングが、勝因の一つでした。とはいえ、すぐに結果に結びついたわけではなく、東京2020パラリンピックは5位、

もと き さくら

2002年生まれ。埼玉県和光市出身。幼少期よりレスリングを始め、埼玉栄中学・高等学校、育英大学を経て、現在は育英大学助手。パリ2024オリンピック競技大会のレスリング女子62kg級で金メダルを獲得。2025年レスリング世界選手権（同階級）優勝。同年、オリンピックと各世代別世界選手権をすべて制覇するグランドスラムを達成した。



「スポーツのまちさいたま」を
一緒に盛り上げていきたい

— それぞれの競技の魅力と、スポーツに関して市や市議会に望むことを教えてください。

元木 レスリングは、いろいろな特徴がある選手が活躍しているんです。大きい選手もいれば、小さい選手もいるし、力が強い選手もいれば、スピードがある選手もいる。自分の個性を生かせば、誰でも強くなれるのが魅力です。

金子 ゴールボールはアイシード（目隠し）を着けて、鈴の入ったボールを相手ゴールに投げる競技です。誰でも楽しめるし、障がいの理解にもつながる、インクルーシブ（包括的な）スポーツでもあるんです。

元木 わたしもしできるんですか？

金子 もちろん！ゴールボールでは1・25kgの球が豪速球で飛んできます。それを打ち

続く世界選手権も6位で「これが自分の限界か……」と考えてしまったこともありましたが……でもその時、トレーナーさんが「ウエイトトレーニングの効果が出るのは3年後からだ！」と教えてくれたんです。その言葉が現実になったのが、パリ2024パラリンピックでした。

元木 絶対あきらめない、その先に新しい世界が待っているんですね。わたしは、運動神経は良くないし、不器用なタイプで。ただ、自分の強みを見つけて、磨き抜けたことで道が開けました。これはスポーツに限らず、すべてに共通すると感じています。

金子 僕も9歳の時に目が見えにくくなってから「できることを見つけて挑戦していこう」と決めました。挑戦を続けて、できることを一つずつ増やしていけば、自分の道が必ず開けると信じています。今、何かに打ち込んでいる皆さんも、あきらめずひたむきに頑張ってくださいね。

かづや かねこ

2000年生まれ。さいたま市出身。小学校1年生から野球に打ち込むが、9歳の時にレーベル遺伝性視神経症を発症し、視力が低下。2014年に参加したバラスポーツ次世代選手発掘プログラムでゴールボールに出会う。パリ2024パラリンピック競技大会のゴールボール男子代表でキャプテンを務め、金メダルを獲得した。

